

なぜ夜の世界で働くのか？

キャバ嬢の本音

日本に來たばかりの頃、「ホスト」や「キャバクラ」という言葉を耳にしたことはあったが、正直なところ、その意味を深く理解してはいなかった。

キャバクラで働く女性たちは「キャバ嬢」と呼ばれ、ドレスや華やかな衣装でお客様をもてなします。お酒を作るだけでなく、会話を楽しませたり、さまざまなサービスを提供することが求められます。

キャバクラは、日本のナイトライフ業界で非常に有名な接客業であり、主にお酒を提供し、客と会話を楽しむサービスを提供する場所です。

キャバクラとは何なのか？どんな人が働いているのか？疑問を抱えながらも、実際にキャバクラで働く「レイ」さん（仮名）に話を聞く機会を得た。彼女のリアルな声を通して、この業界の光と影に迫っていきたい。

キャバクラでの一日

隣に座り、会話とお酒で接客する日常とは？

「キャバクラでは、お酒を飲まないといけませんか？」

彼女は少し笑って答えた。

「絶対ではないです。でも、飲んだほうが場が盛り上がるし、売上にもつながるので、飲む子が多いですね。」

実際にキャバ嬢の一日を聞いてみると、思っていたよりもハードな生活が見えてきた。

「二日酔いがひどいので、起きたら長くお風呂に入って、ヘパリーゼを飲みます。起きると夕方くらいなので、出勤前に化粧をして、同伴で夜ご飯を食べることもあります。」

仕事が始まると、お客様の要望に応じて会話を盛り上げる必要がある。時には、相手が求める言葉を考えながら話すことも重要だという。

「お客様が欲しい言葉を頭で考えながら話します。例えば、常に褒めちぎります。」

この業界で生き残るには、美しい容姿だけではなく、気配りやトークスキルも求められるのだ。

もちろん、キャバクラには魅力もある。

例えば、収入の高さだ。一般的なアルバイトと比較すると、キャバ嬢の給与は圧倒的に高い。お客様からの「指名」や「ドリンクバック」で収入が増えるため、人気のキャバ嬢になれば月収百万円以上も可能だ。

「お酒を飲めば飲むほど売り上げになるので、高級シャンパンが飲めると良いですね。」

彼女は冗談めかして言ったが、実際にそれがキャバクラのシステムの一部分なのだ。

「お客さんに気に入られるためには、どうすればいいですか？」

「お客様に気に入ってもらう必要があるのですが、自分に興味がありそうなお客様になるべくラインをしたり、呼んだりします。」

「やっぱり努力しないと指名はもらえないんですね。」

「キャバ嬢になるためには、どんなスキルが必要ですか？」

彼女は笑いながら。

「ジャストビューティフルフェイスをおっぱい」

「それだけで大丈夫？」

「一番は気遣いとトーク力」

キャバクラの魅力とは？

キャバクラの闇—変わった価値観

しかし、この仕事には大きな代償もある。

「キャバクラの仕事を始める前と今で、自分が変わったと思いますか？」と尋ねると、彼女は少し考えてからこう答えた。

「少し純粋じゃなくなったと思います。男の人（おじさん）がご馳走してくれないのはありえないと思うようになりました。」

また、精神的な影響も大きい。毎晩お酒を飲みながら、時には無理に笑顔を作ることもある。

「後は、おじさんが大嫌いになってしまったので、なるべく避けて生きてます。」

仕事を続けるうちに、おじさん嫌いになったという彼女の言葉には、業界の厳しさが滲み出ていた。



キャバクラで働くべきか？

最後に、彼女にこう聞いた。

「キャバクラの仕事をすべきだと思いますか？」

彼女は少し笑って、首を振った。

「しなずに越したことはないと思います。」

煌びやかな世界の裏には、想像以上に過酷な現実がある。夜の世界で働くことを選ぶかどうか、それを決めるのはあなた自身だ。



レイという名前は『エヴァンゲリオン』のキャラからとったものらしい。



